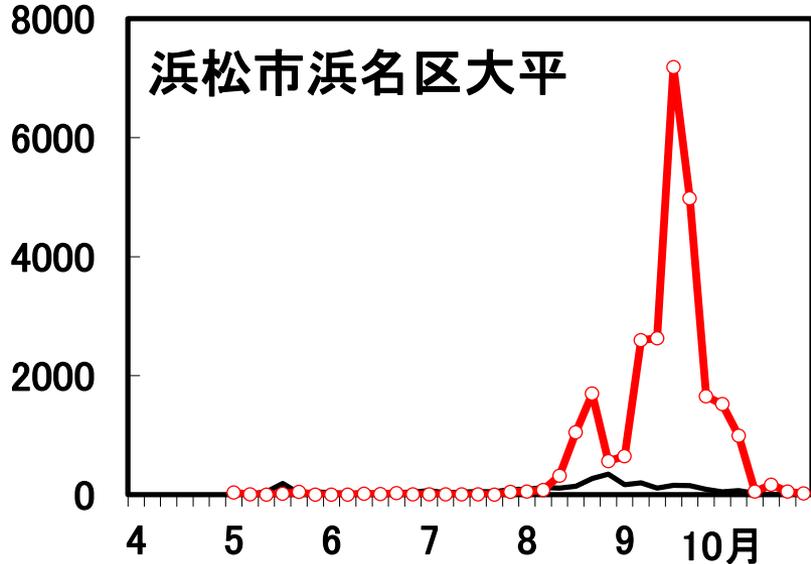
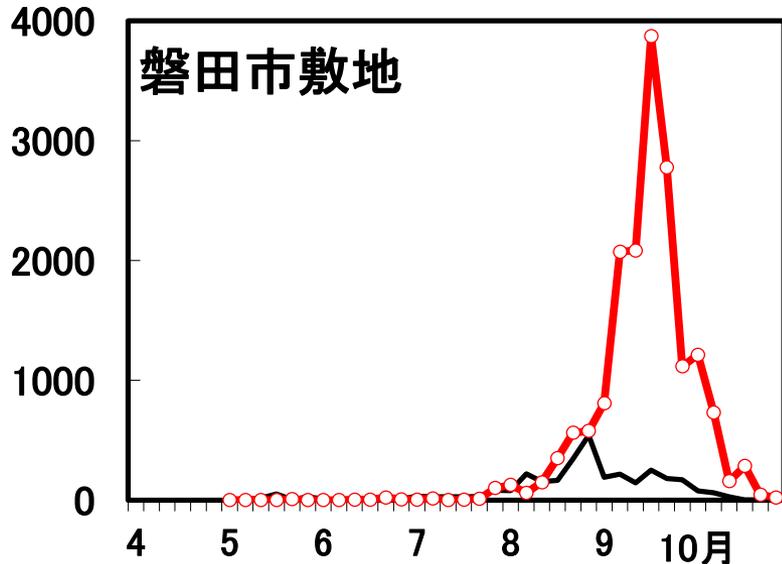
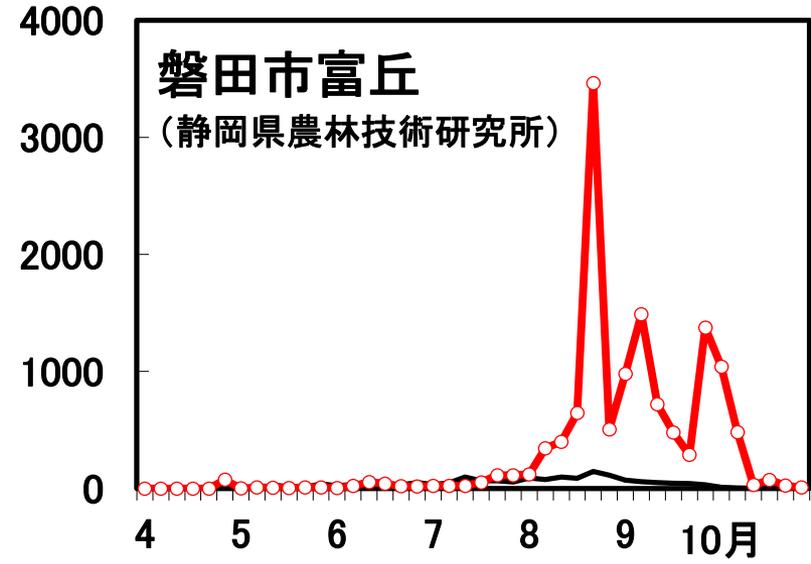
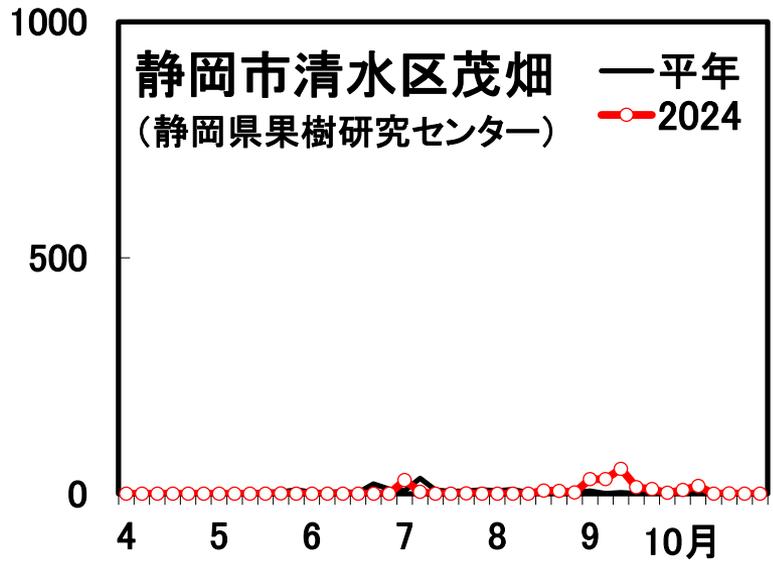




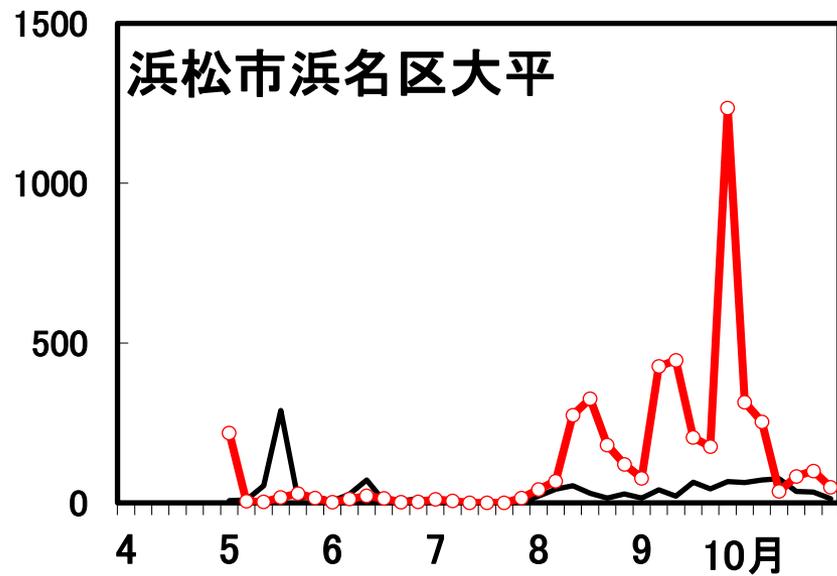
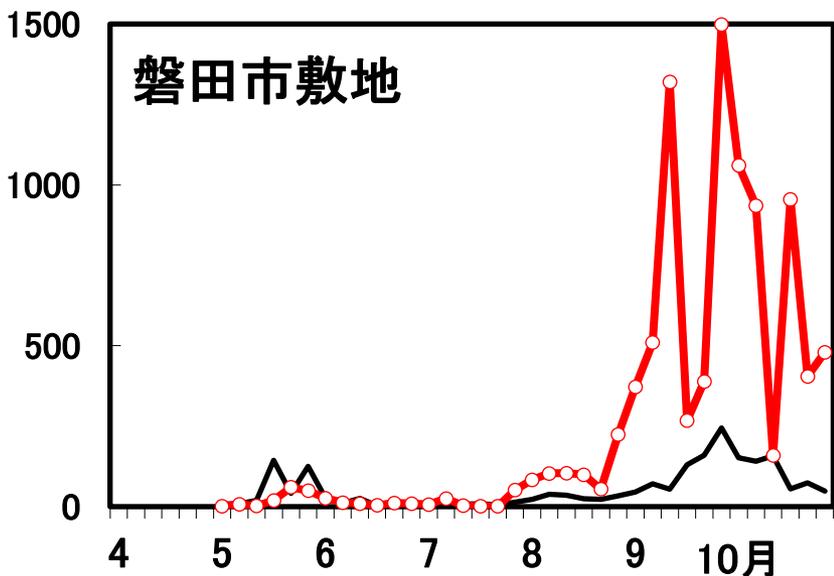
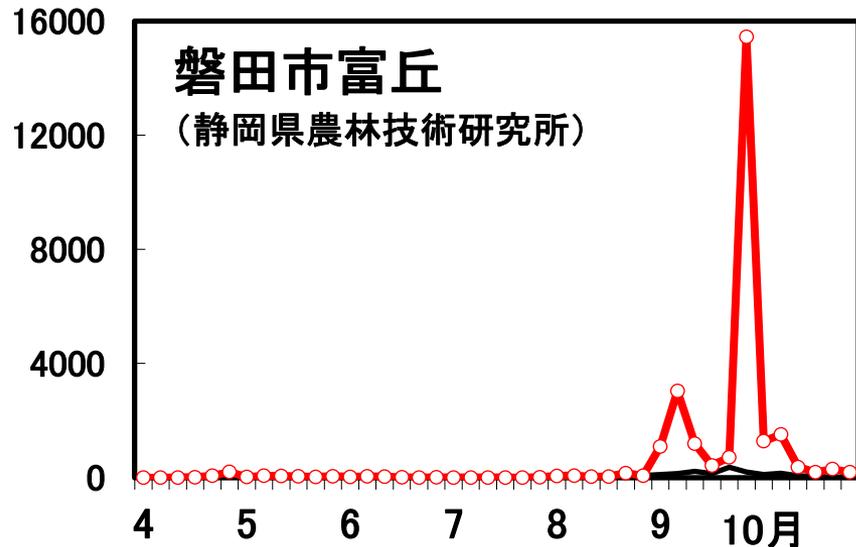
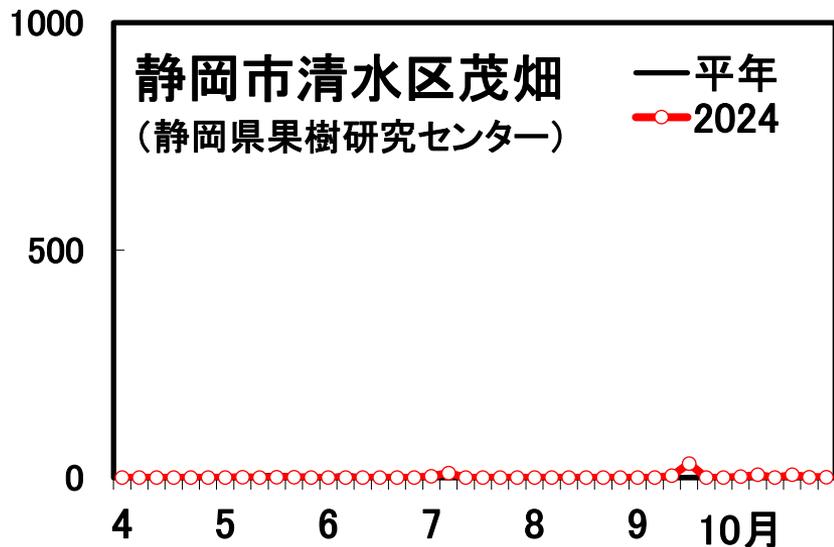
チャバネアオカメムシ 令和6年の発生状況 (予察灯)

誘殺数／半旬





ツヤアオカメムシ 令和6年の発生状況 (予察灯)

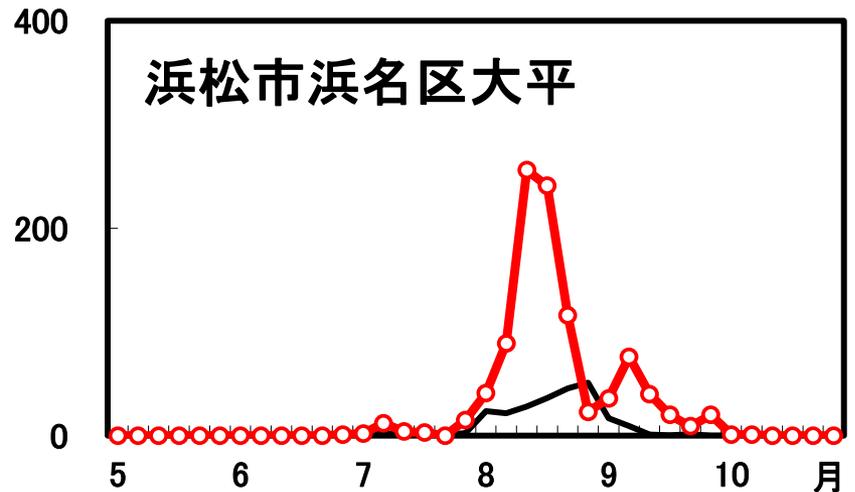
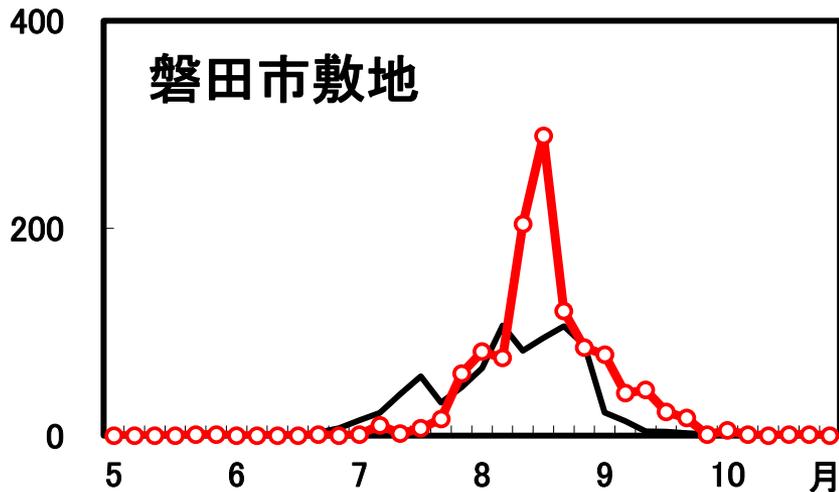
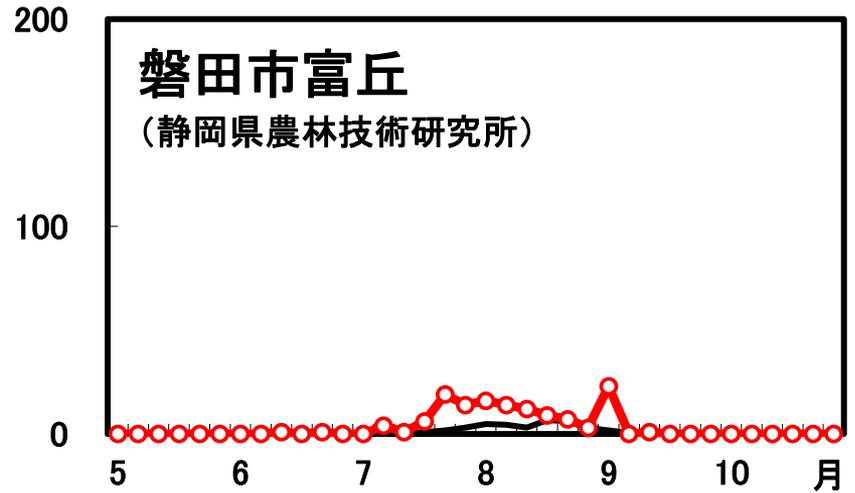
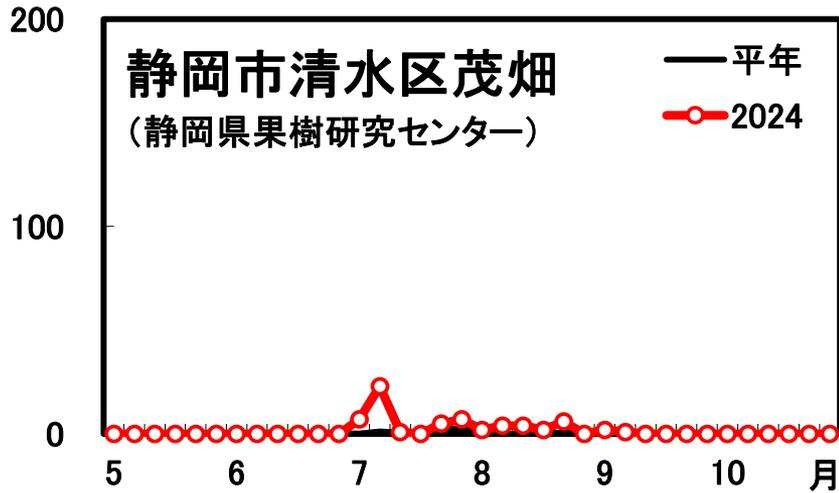


誘殺数/半旬



クサギカメムシ 令和6年の発生状況 (予察灯)

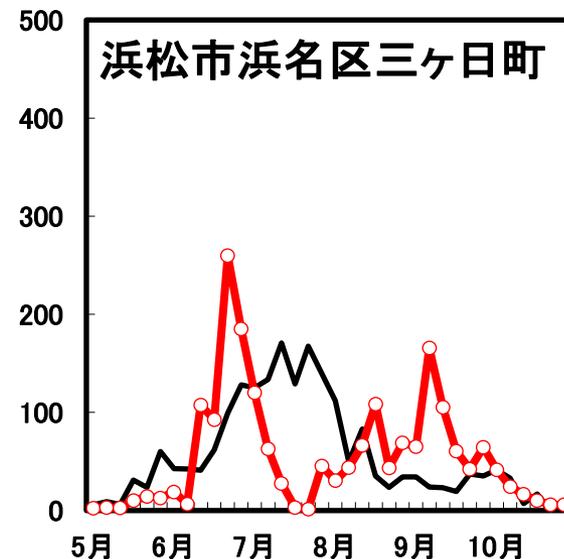
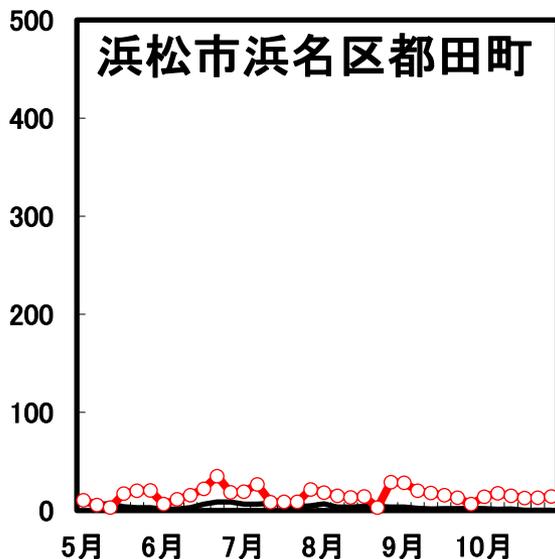
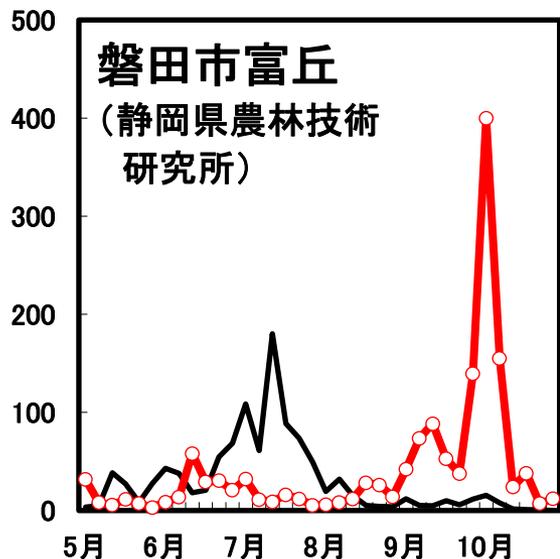
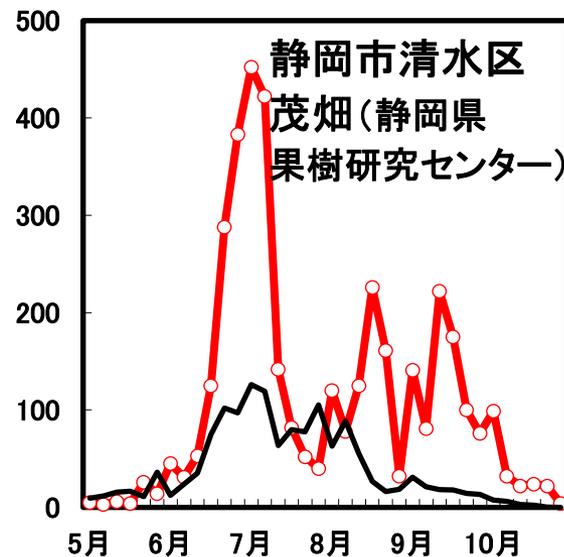
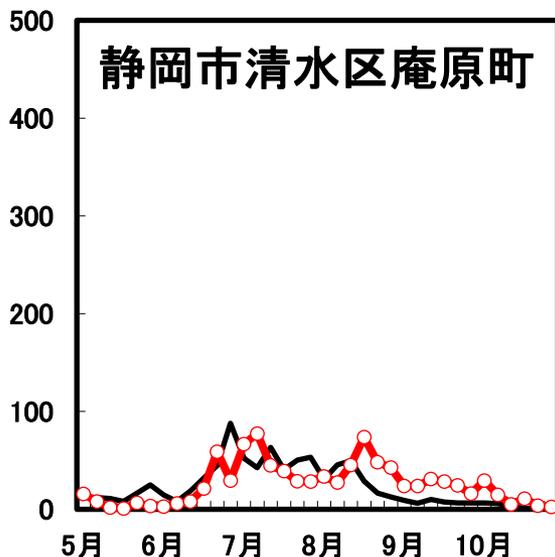
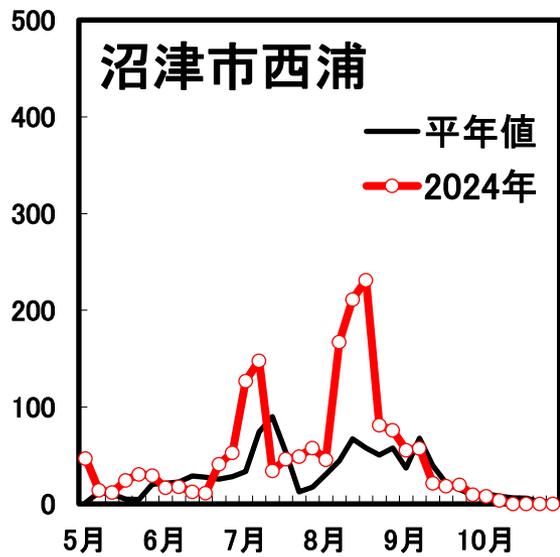
誘殺数／半旬



チャバネアオカメムシ 令和6年の発生状況 (フェロモントラップ)

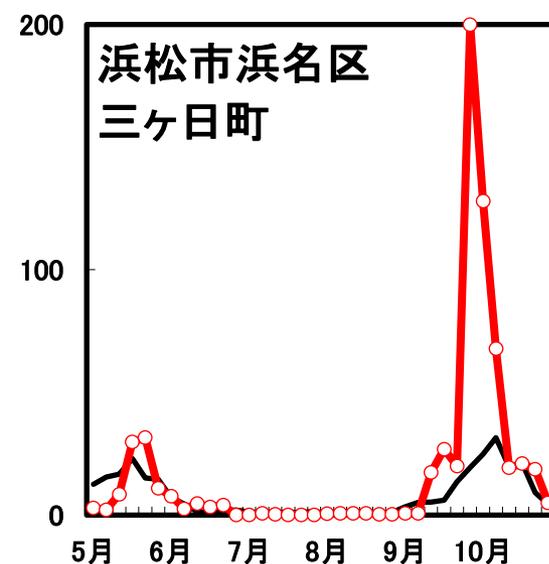
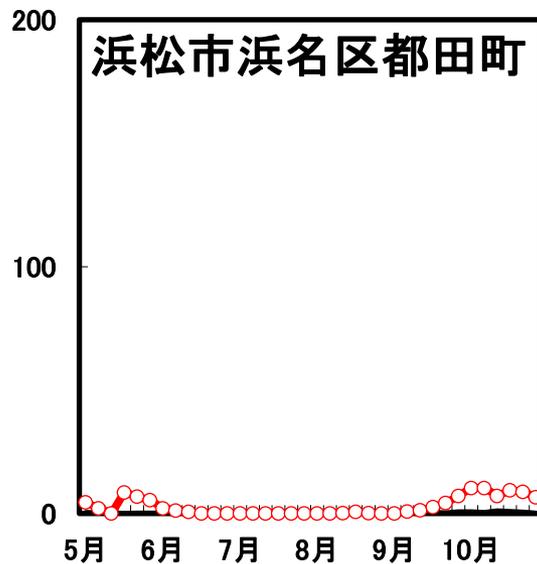
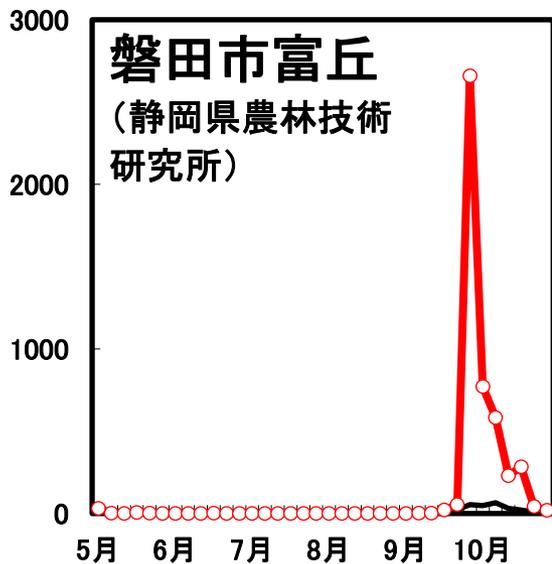
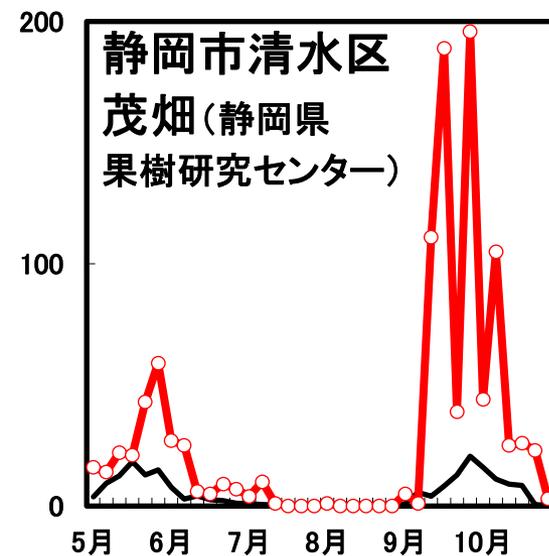
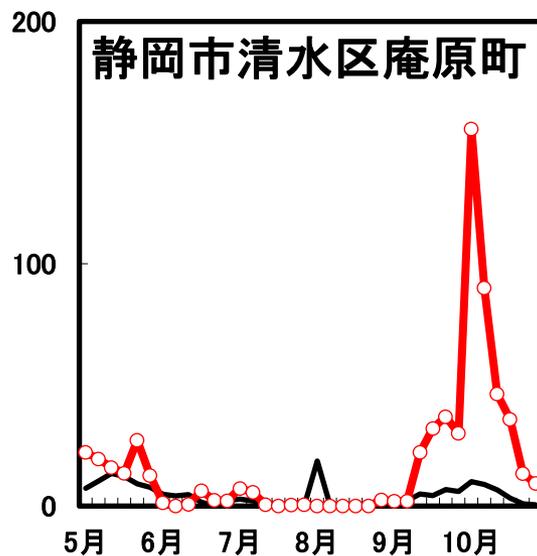
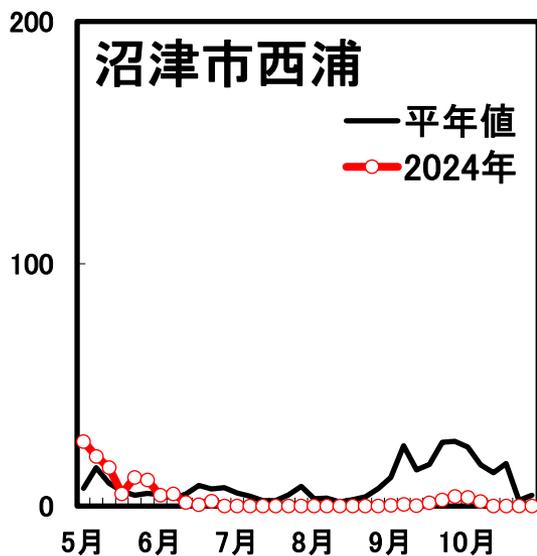


誘殺数／半旬





ツヤアオカメムシ 令和6年の発生状況 (フェロモントラップ)

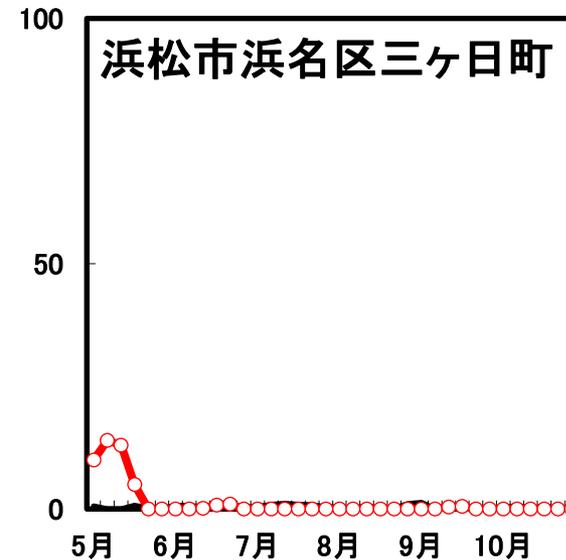
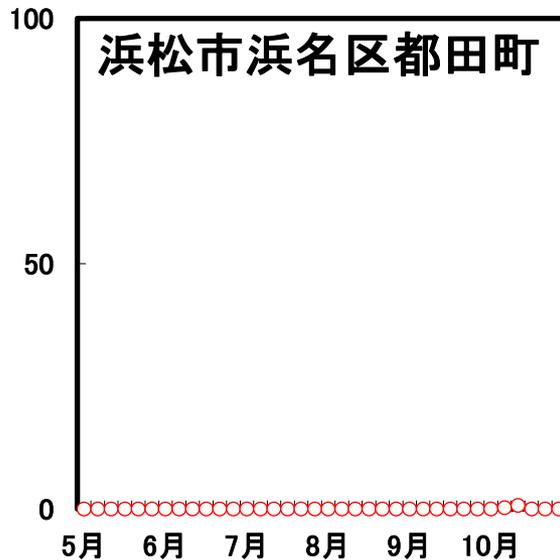
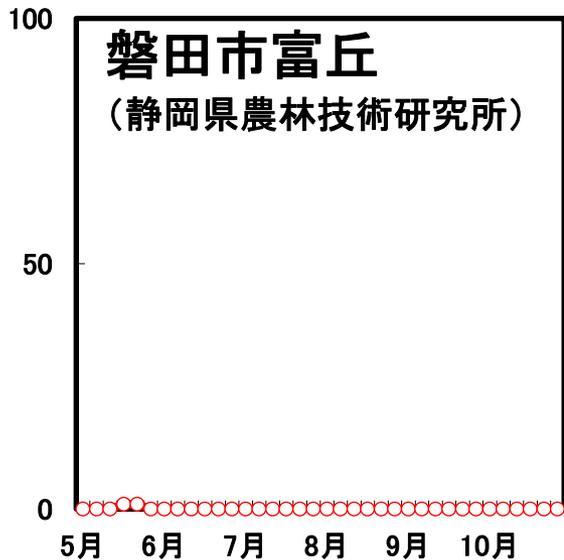
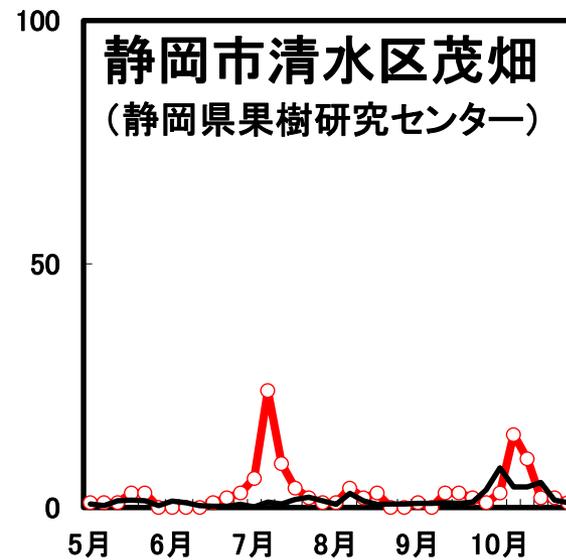
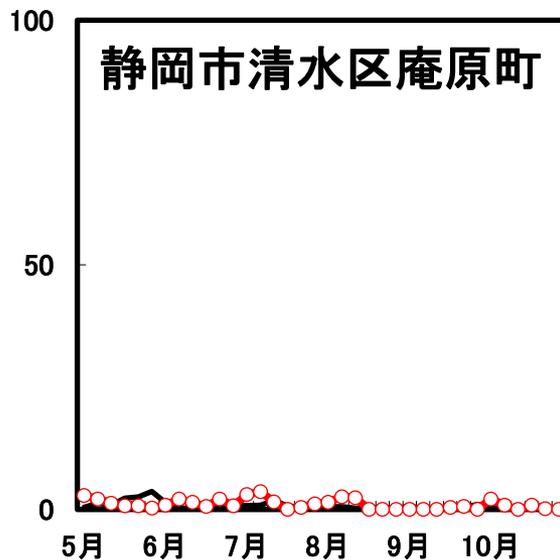
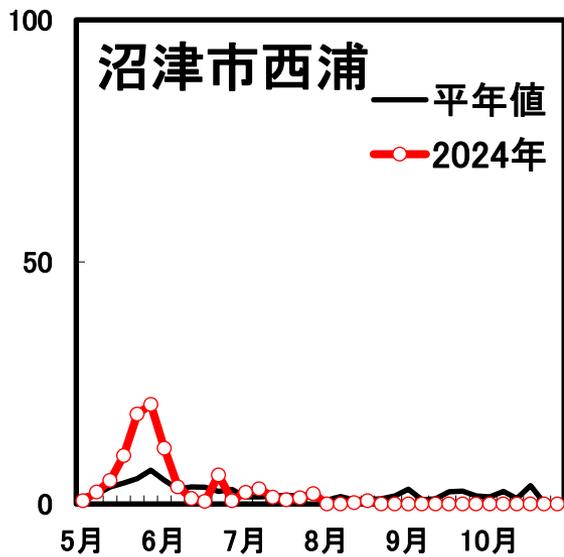


誘殺数／半旬



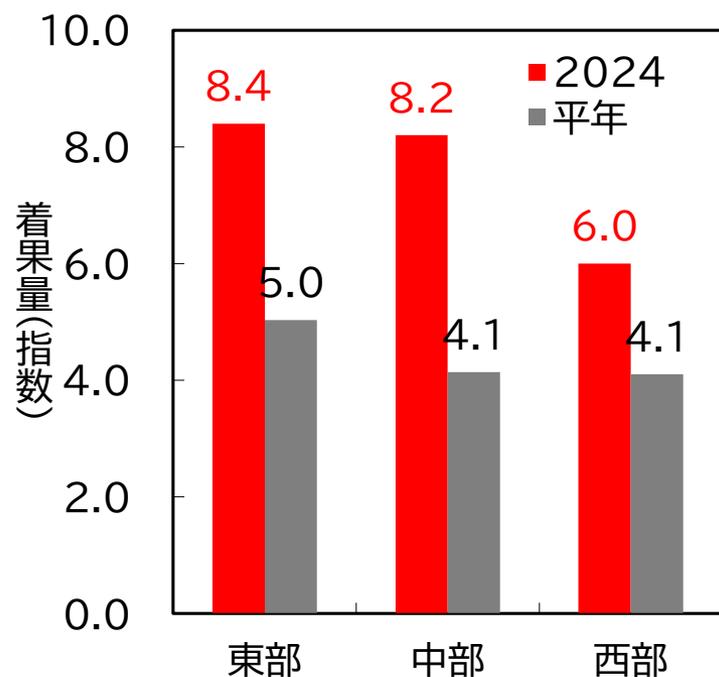
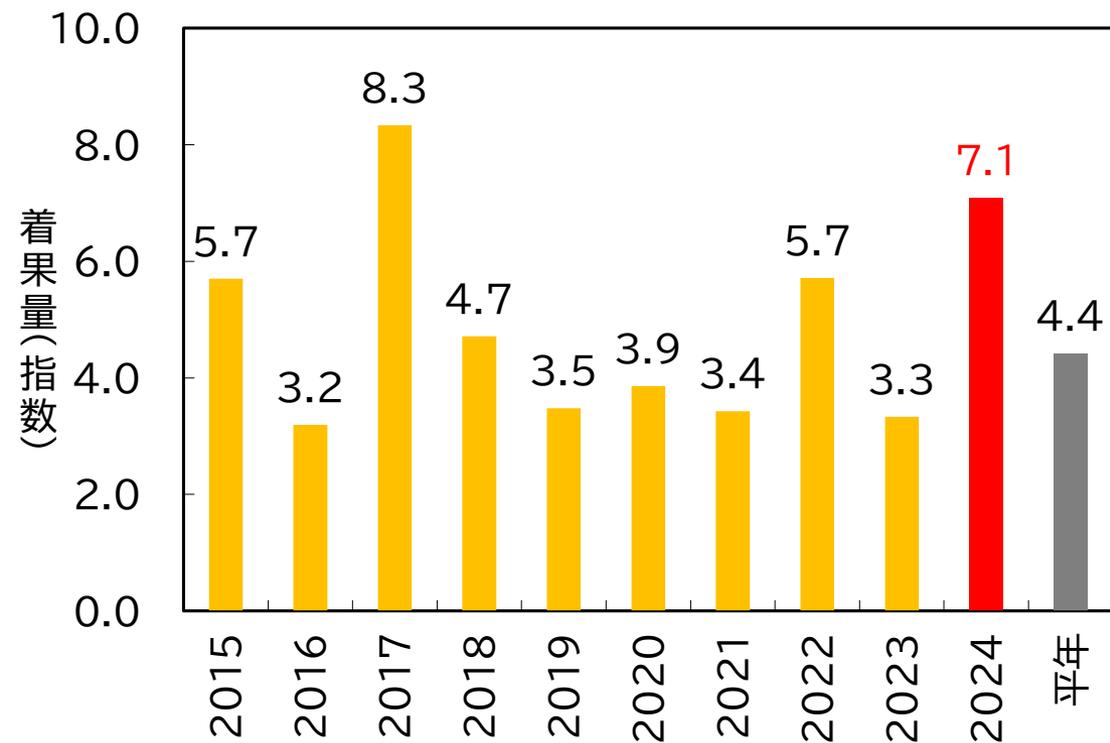
クサギカメムシ 令和6年の発生状況 (フェロモントラップ)

誘殺数／半旬





ヒノキ・スギ球果(実)の着果量

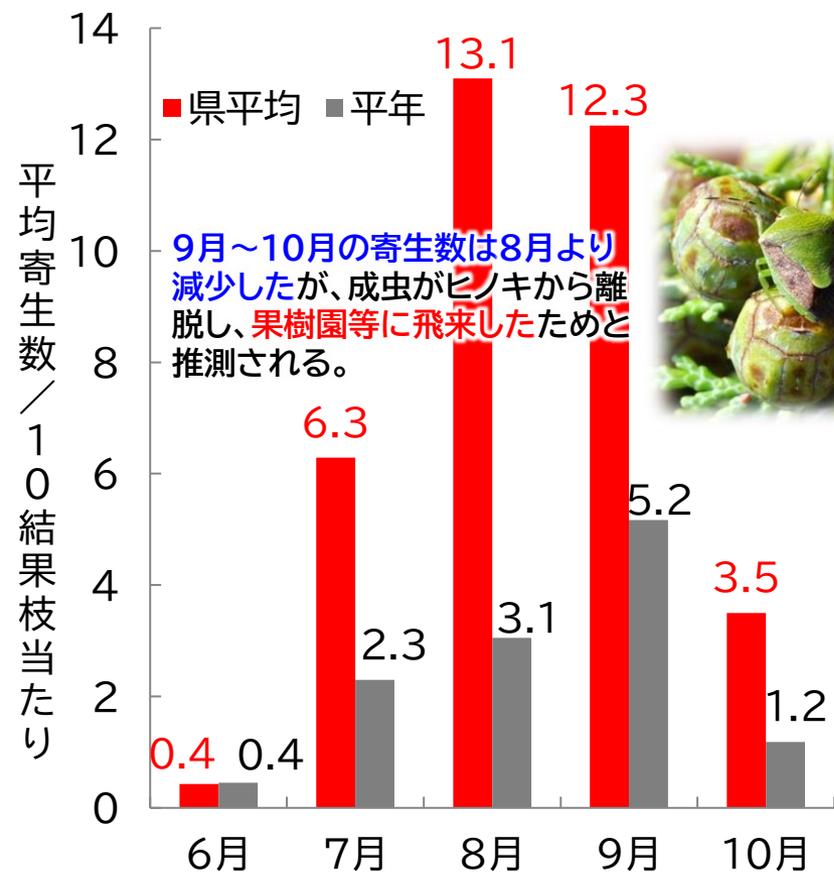


ヒノキ・スギ着果量の年次推移(県平均) ヒノキ・スギ着果量(地域別)

2024年のヒノキ・スギ着果量は平年より多い

(果樹カメムシ類は球果を餌として増殖するため、
着果量が多いと本虫は増えやすくなる)

ヒノキ球果におけるカメムシ類の寄生数と 同球果におけるカメムシ類の吸汁痕数

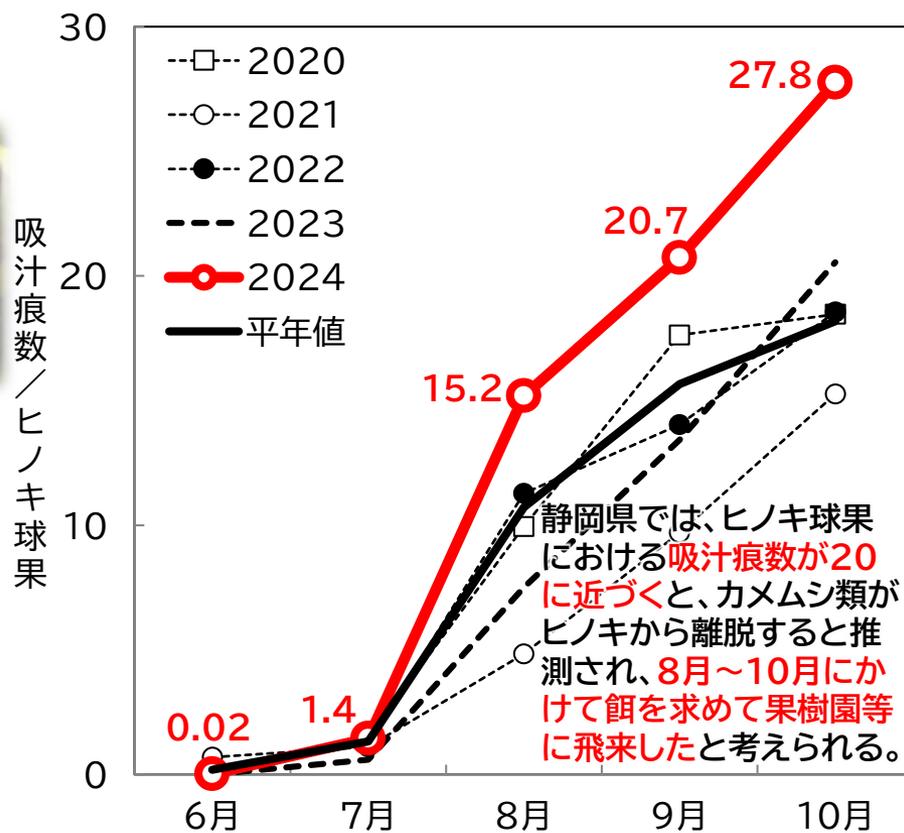


カメムシ類の寄生数(県平均)

10月のカメムシ類の寄生数は10結果枝あたり3.5頭(平年1.2頭、平年比2.9倍)と**平年より多かった。**



9月～10月の寄生数は8月より減少したが、成虫がヒノキから離脱し、果樹園等に飛来したためと推測される。



カメムシ類の吸汁痕数(県平均)

10月のヒノキ球果1個あたりのカメムシ類の吸汁痕数は、平均27.8(平年18.2)と**平年より多かった。**

静岡県では、ヒノキ球果における吸汁痕数が20に近づく、カメムシ類がヒノキから離脱すると推測され、8月～10月にかけて餌を求めて果樹園等に飛来したと考えられる。

(参考:2024年7月予測結果)

カメムシ類の果樹園への飛来予測日 (ヒノキからの離脱予測日)

ヒノキ球果におけるカメムシ吸汁痕数と離脱予測日

地域	吸汁痕数/球果	起点日 (球果採集日)	離脱予測日
東部	0.6	7月21日	9月10日
中部	1.6	7月21日	9月7日
西部	2.0	7月21日	9月5日
県平均	1.4	7月21日	9月7日
吸汁痕数が最も多い地点	4.1	7月21日	8月29日
平年値	1.3	7月21日	9月8日

注)堤(2003)による予測式 $y=54.17-3.776x+0.01937x^2$ をもとに計算

カメムシ類の果樹園への飛来予測日

9月5日～10日

(地域により異なる)



ただし、吸汁痕数が最も多い地点では**8月29日**